

平成30年度「職業実践専門課程等を通じた 専修学校の質保証・向上の推進」

I. 教職員の資質能力向上の推進 (ii) 教職員研修プログラム
の構築

成果報告書

2019年2月8日（金）

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

目次

1. ICT活用事例に関する調査集計（教務責任者、学科長）
2. ICT活用研修開発のための視察調査
3. ICTサンプルコンテンツ作成
4. ICT活用実証講座
5. 次年度へ向けた課題

1. ICT活用事例に関する調査集計（教務責任者）

【目的】

専門学校教育におけるICT活用の実態把握および課題抽出のために本調査を実施した。

【対象】

全専研加盟校の教務責任者（教務部長レベル）を対象とした調査

【調査方法】

調査票ダウンロード型調査

※調査依頼メールから調査票をダウンロードし回答、メール提出

【実施期間】

平成30年8月28日～9月10日

【アンケート回収数】

101名（各校に1名の教務責任者がいると仮定すると全教務責任者数126名となり、回収率は80.1%となる）

【アンケート回答結果からの要旨】

ICT活用教育について、大半の教務責任者が重要であると認識している。

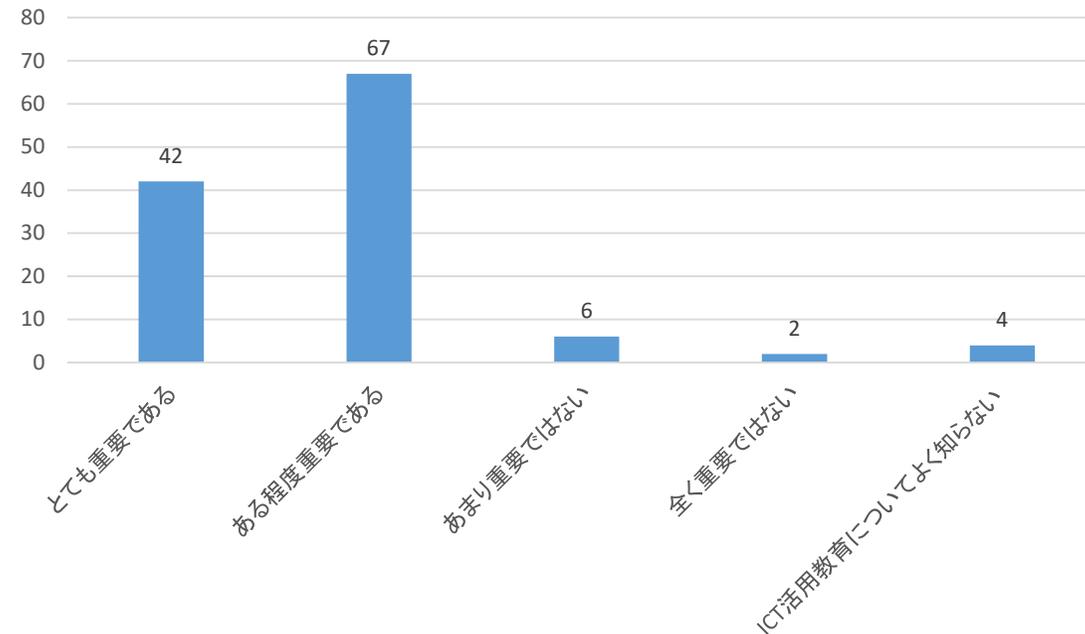
ICT活用教育導入は『学生の学習効果』『教職員の作業効率化』が主目的としており、導入した結果、概ね期待通りの効果を発揮している。

しかし、ICT活用教育導入・運用には様々な阻害要因が存在している。その主たるものは、『予算・時間の不足』と『担当人員の質量両面での不足』である。

■ICT活用教育は約90%の教務責任者が重要であると回答 (回答数109/121)

その内の約39% (回答数42/109) の教務責任者が『とても重要である』と回答

No.	選択肢	回答数
1	とても重要である	42
2	ある程度重要である	67
3	あまり重要ではない	6
4	全く重要ではない	2
5	ICT活用教育についてよく知らない	4



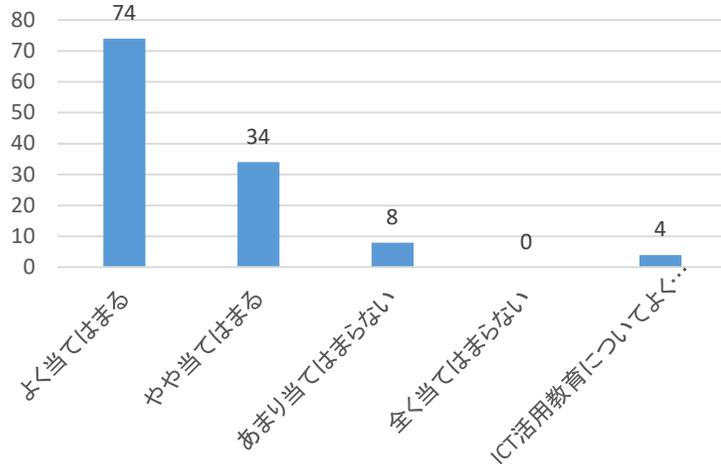
■ICT活用教育に強く期待する効果の上位3つは以下の通り

(1位) 『学生に対してより便利な環境の提供』（「よく当てはまる」回答数74、全体の約62%）

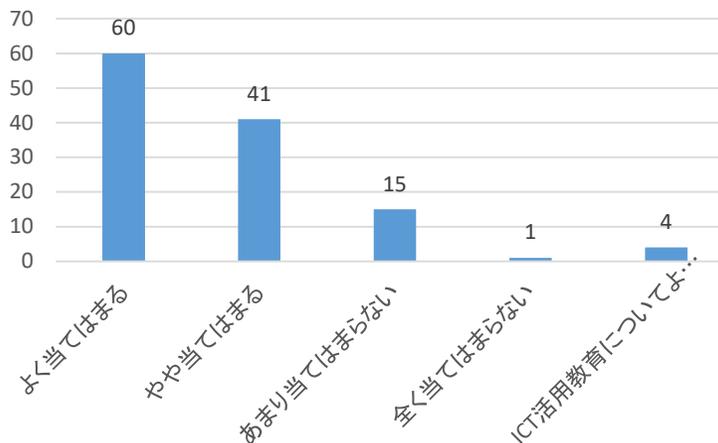
(2位) 『学生の学習効果の向上』（「よく当てはまる」回答数60、全体の約50%）

(3位) 『教職員の作業効率化』（「よく当てはまる」回答数50、全体の約41%）

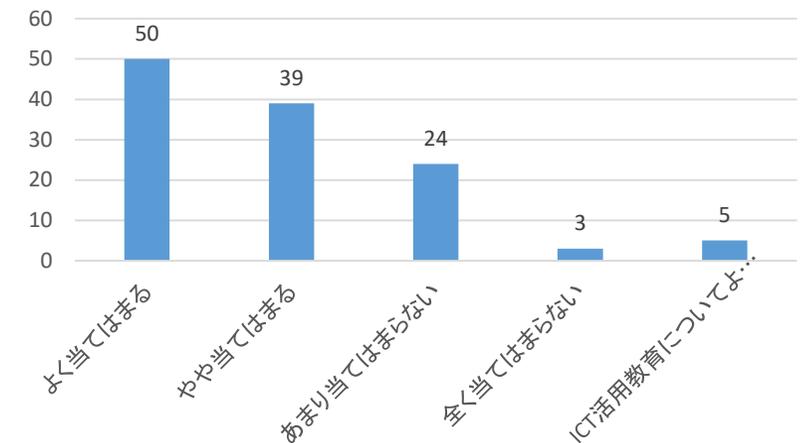
No.	期待している効果	
(1)	学生に対してより便利な環境の提供	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	74
2	やや当てはまる	34
3	あまり当てはまらない	8
4	全く当てはまらない	0
5	ICT活用教育についてよく知らないので回答できない	4



No.	期待している効果	
(3)	学生の学習効果の向上	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	60
2	やや当てはまる	41
3	あまり当てはまらない	15
4	全く当てはまらない	1
5	ICT活用教育についてよく知らないので回答できない	4



No.	期待している効果	
(8)	教職員の作業効率化	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	50
2	やや当てはまる	39
3	あまり当てはまらない	24
4	全く当てはまらない	3
5	ICT活用教育についてよく知らないので回答できない	5

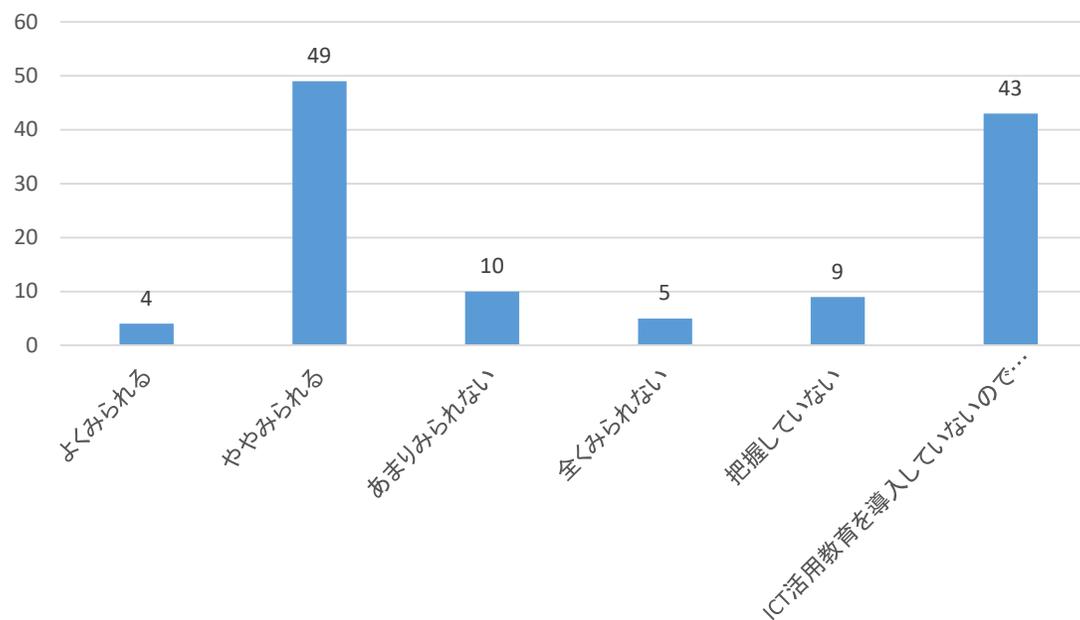


■ICT活用教育を導入して実際に効果が出たとの回答は全体の約44%

(回答数53/120)

ただし、『よく効果が出ている』と回答した教務責任者はその内の約8%（回答数4/53）にとどまることから、効果は限定的であると思われる。

No.	選択肢	回答数
1	よくみられる	4
2	ややみられる	49
3	あまりみられない	10
4	全くみられない	5
5	把握していない	9
6	ICT活用教育を導入していないので回答できない	43



■ICT活用教育を導入して、大きく得られた効果の上位3つは以下の通り

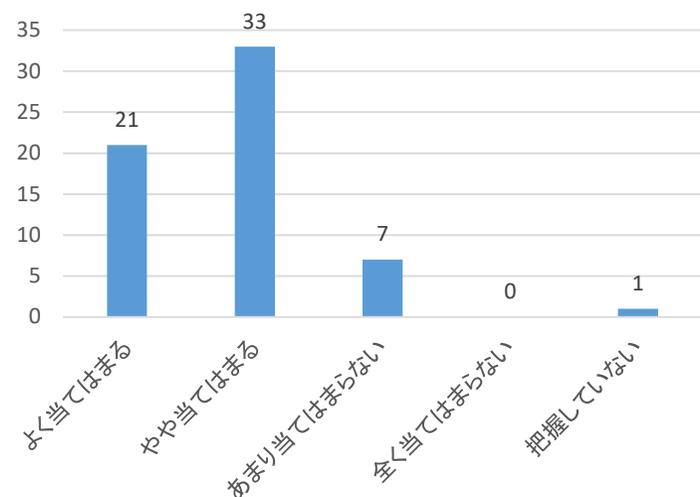
(1位) 『学生に対してより便利な環境の提供』（「よく当てはまる」回答数21、全体の約34%）

(2位) 『学生の学習効果の向上』（「よく当てはまる」回答数16、全体の約26%）

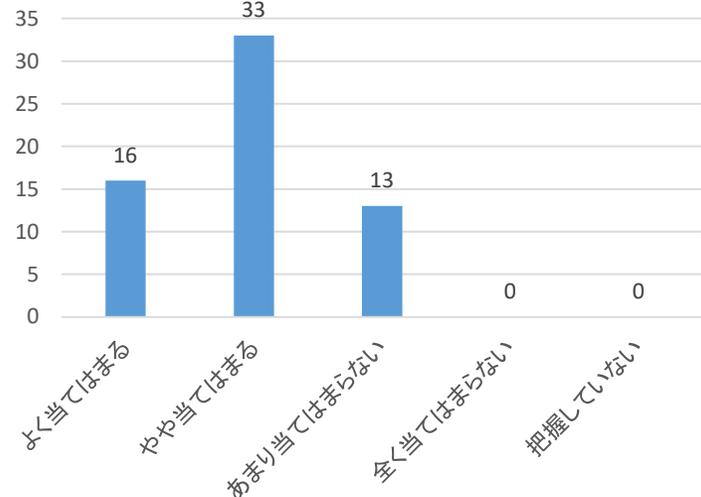
(3位) 『教職員の作業効率化』（「よく当てはまる」回答数14、全体の約23%）

となり、期待と（実際の）効果の程度差は見られるものの、項目は一致しているという状況である

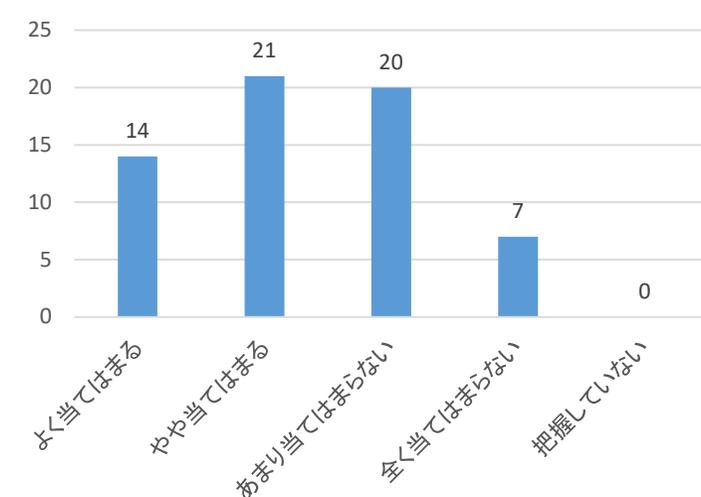
No.	得られた効果	回答数
(1)	学生に対してより便利な環境の提供	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	21
2	やや当てはまる	33
3	あまり当てはまらない	7
4	全く当てはまらない	0
5	把握していない	1



No.	得られた効果	回答数
(3)	学生の学習効果の向上	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	16
2	やや当てはまる	33
3	あまり当てはまらない	13
4	全く当てはまらない	0
5	把握していない	0



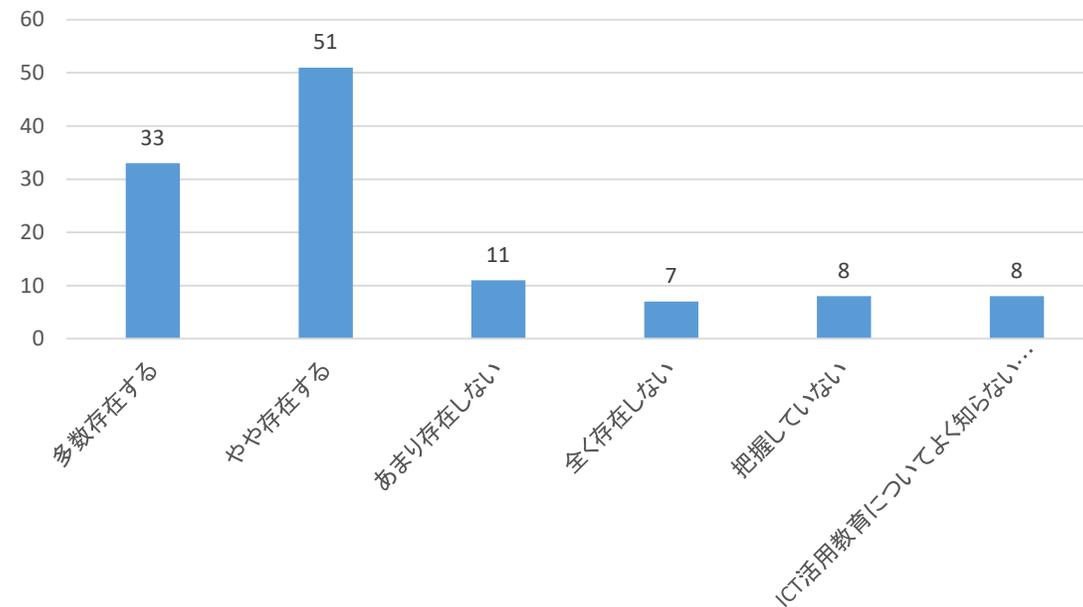
No.	得られた効果	回答数
(8)	教職員の作業効率化	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	14
2	やや当てはまる	21
3	あまり当てはまらない	20
4	全く当てはまらない	7
5	把握していない	0



■ICT活用教育導入について、約71%の教務責任者が推進の阻害要因 有りと回答 (回答数84/118)

その内、約39%（回答数33/84）の教務責任者が、阻害要因が『多数存在する』と回答

No.	選択肢	回答数
1	多数存在する	33
2	やや存在する	51
3	あまり存在しない	11
4	全く存在しない	7
5	把握していない	8
6	ICT活用教育についてよく知らないので回答できない	8



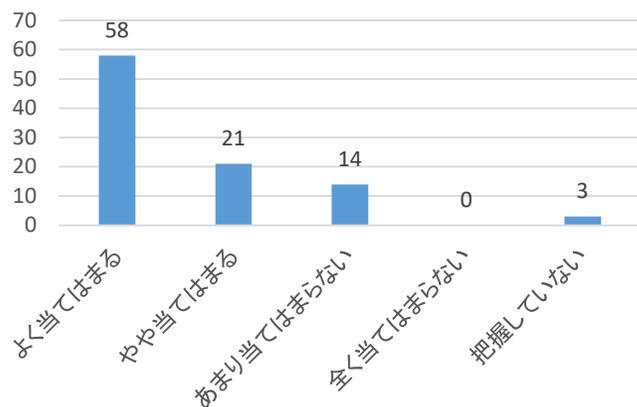
■ICT活用教育導入の大きな推進阻害要因上位3つは以下の通り

(1位) 『予算の不足』(『よく当てはまる』回答数58、全体の約60%)

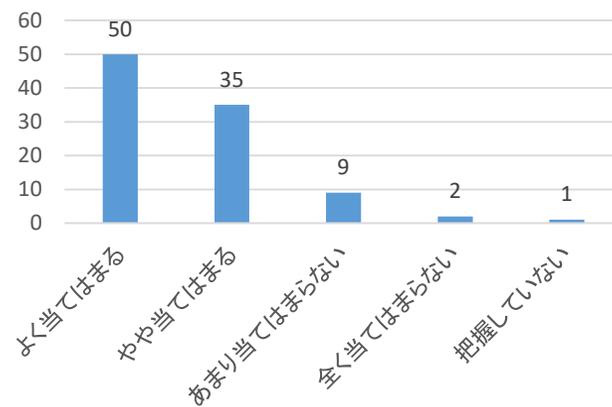
(2位) 『時間の不足』(『よく当てはまる』回答数50、全体の約52%)

(3位) 『教職員へのICT活用の技術支援体制の不足』(『よく当てはまる』回答数43、全体の約45%)

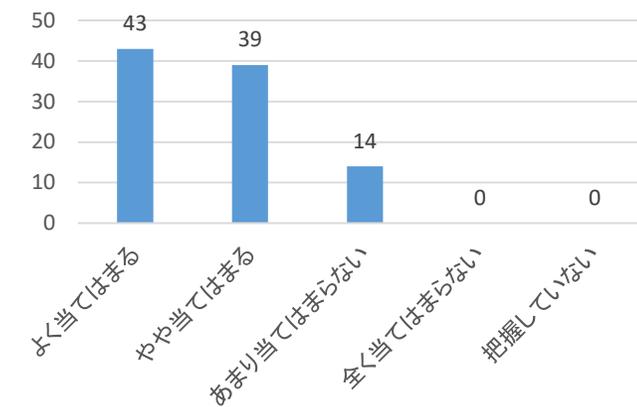
No.	阻害要因	No.	阻害要因		
(6)	予算の不足	(7)	時間の不足		
No.	選択肢	回答数	No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	58	1	よく当てはまる	50
2	やや当てはまる	21	2	やや当てはまる	35
3	あまり当てはまらない	14	3	あまり当てはまらない	9
4	全く当てはまらない	0	4	全く当てはまらない	2
5	把握していない	3	5	把握していない	1



No.	阻害要因	No.	阻害要因		
(7)	時間の不足	(9)	教職員へのICT活用の技術支援体制の不足		
No.	選択肢	回答数	No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	50	1	よく当てはまる	43
2	やや当てはまる	35	2	やや当てはまる	39
3	あまり当てはまらない	9	3	あまり当てはまらない	14
4	全く当てはまらない	2	4	全く当てはまらない	0
5	把握していない	1	5	把握していない	0



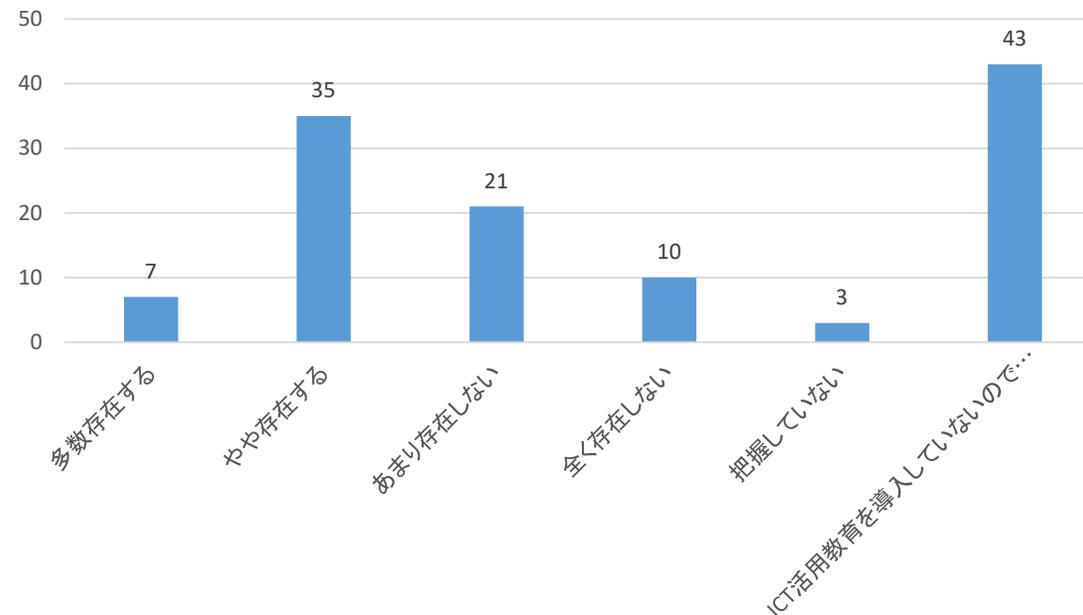
No.	阻害要因	No.	阻害要因		
(9)	教職員へのICT活用の技術支援体制の不足				
No.	選択肢	回答数	No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	43	1	よく当てはまる	43
2	やや当てはまる	39	2	やや当てはまる	39
3	あまり当てはまらない	14	3	あまり当てはまらない	14
4	全く当てはまらない	0	4	全く当てはまらない	0
5	把握していない	0	5	把握していない	0



■ICT活用教育を導入して実際にデメリットが発生したとの回答は全体の約35% (回答数42/119)

その内、『多数存在する』と回答した教務責任者はその内の約17% (回答数7/42) にとどまる

No.	選択肢	回答数
1	多数存在する	7
2	やや存在する	35
3	あまり存在しない	21
4	全く存在しない	10
5	把握していない	3
6	ICT活用教育を導入していないので回答できない	43



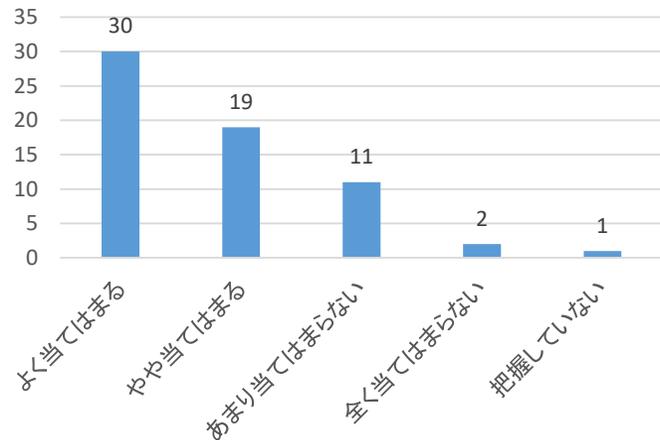
■ICT活用教育を導入しての、大きなデメリット上位3つは以下の通り

(1位) 『コンテンツの作成など教員の負担増』(「よく当てはまる」回答数30、全体の約48%)

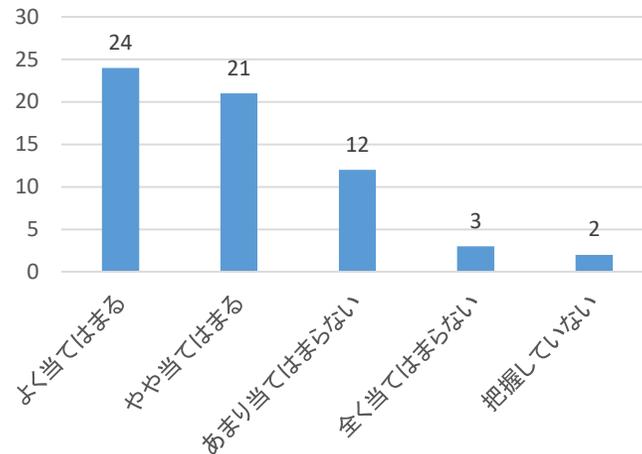
(2位) 『予算コストが増加』(「よく当てはまる」回答数24、全体の約39%)

(3位) 『ICTに不慣れな教職員の対応の負担』(「よく当てはまる」回答数16、全体の約26%)

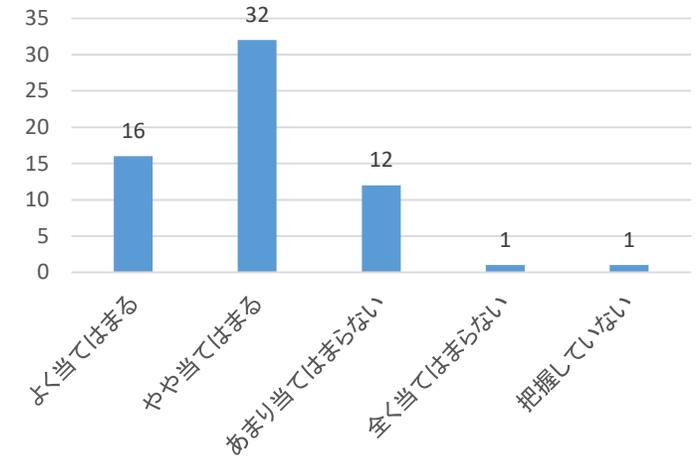
No.	デメリット	
(1)	コンテンツの作成など教員の負担増	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	30
2	やや当てはまる	19
3	あまり当てはまらない	11
4	全く当てはまらない	2
5	把握していない	1



No.	デメリット	
(3)	予算コストが増加	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	24
2	やや当てはまる	21
3	あまり当てはまらない	12
4	全く当てはまらない	3
5	把握していない	2



No.	デメリット	
(9)	ICTに不慣れな教職員の対応の負担	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	16
2	やや当てはまる	32
3	あまり当てはまらない	12
4	全く当てはまらない	1
5	把握していない	1



1. ICT活用事例に関する調査集計（学科長）

【目的】

専門学校教育におけるICT活用の実態把握および課題抽出のために本調査を実施した。

【対象】

全専研加盟校の全学科の学科長を対象とした調査

【調査方法】

調査票ダウンロード型調査

※調査依頼メールから調査票をダウンロードし回答、メール提出

【実施期間】

平成30年8月28日～9月10日

【アンケート回収数】

467名（全専研加盟校の全学科長数554名となり、回収率は84.2%となる）

1. ICT活用事例に関する調査集計 (学科長)

【アンケート回答結果からの要旨】

技術・技能習得の実習系授業において、復習予習といった自学自習向けICT活用が主流ではある。

ただし、それ以上にレポートその他情報やり取りといった学生・教員間のコミュニケーションツールであることが多い様子である。

教材・コンテンツの作成は、大半が教員の工数が充てられているのが実情であり、効果測定の様子が不足しているケースが多い。

ICTの中でも動画教材が導入されているケースは少数派であり、今後導入の阻害要因が解消されるならば、特に学生の学習意欲・効果向上のために、動画教材を活用したい。

■技術・技能習得を目的とした実習系授業でのICT活用目的の上位4つは以下の通り

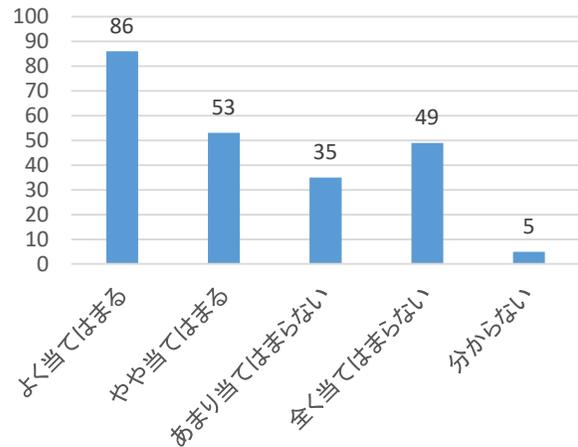
(1位) 『レポートなどの提出』(「よく当てはまる」回答数86、全体の約38%)

(2位) 『学務情報の伝達』(「よく当てはまる」回答数85、全体の約40%※未回答分を分母に入れていないため)

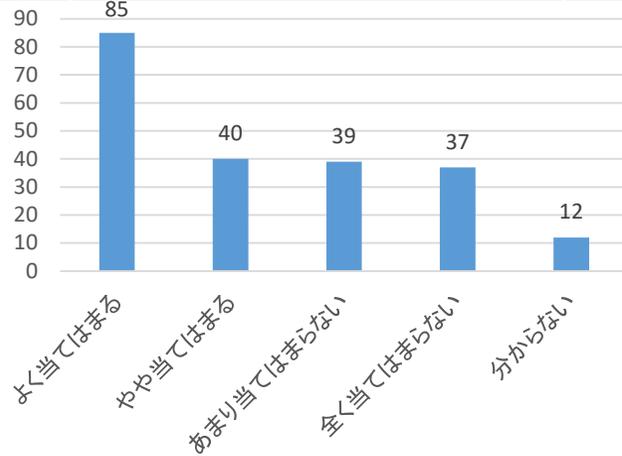
『学生・教員間のコミュニケーション』(「よく当てはまる」回答数85、全体の約37%)

(4位) 『自学自習』(「よく当てはまる」回答数74、全体の約33%)

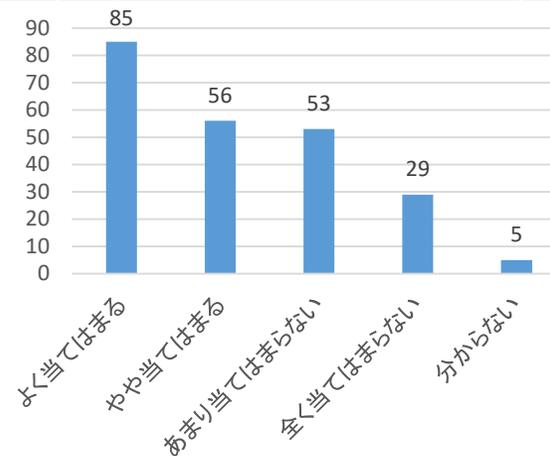
No.	具体的な狙い	
(13)	レポートなどの提出	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	86
2	やや当てはまる	53
3	あまり当てはまらない	35
4	全く当てはまらない	49
5	分からない	5



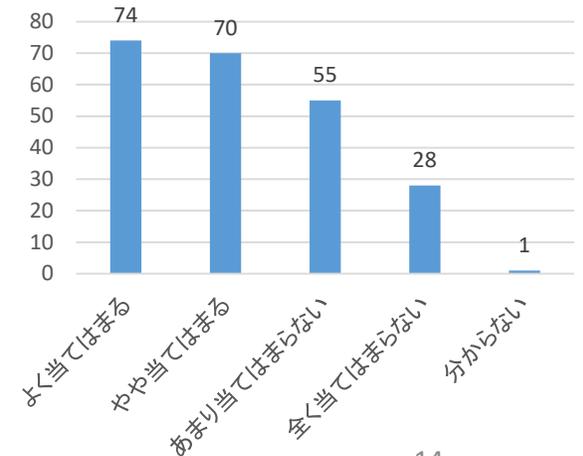
No.	具体的な狙い	
(1)	学務情報の伝達	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	85
2	やや当てはまる	40
3	あまり当てはまらない	39
4	全く当てはまらない	37
5	分からない	12



No.	具体的な狙い	
(7)	学生・教員間のコミュニケーション	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	85
2	やや当てはまる	56
3	あまり当てはまらない	53
4	全く当てはまらない	29
5	分からない	5



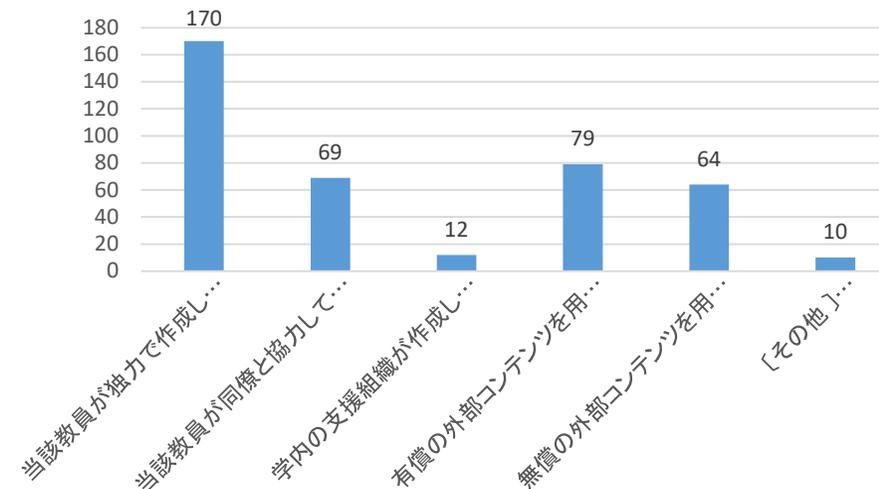
No.	具体的な狙い	
(4)	自学自習	
No.	選択肢	回答数
1	よく当てはまる	74
2	やや当てはまる	70
3	あまり当てはまらない	55
4	全く当てはまらない	28
5	分からない	1



■教材やコンテンツの作成は、全体の約60%が「教員の独力作成」か「同僚教員との合作」である (回答数239/404)

教務責任者アンケート結果からも明らかなように、『予算不足』という阻害要因が大きいために、教員自作がマジョリティであると思われる

No.	選択肢	回答数
1	当該教員が独力で作成している	170
2	当該教員が同僚と協力して作成している	69
3	学内の支援組織が作成している	12
4	有償の外部コンテンツを用いている	79
5	無償の外部コンテンツを用いている	64
6	〔その他〕 卒業制作という科目の特性で毎年制作物が変わります。 よって特別な教材というものは作成しておりません。 医療系スポーツ系の文献、論文、現場での症例を利用。 市販の教科書を使用。	10



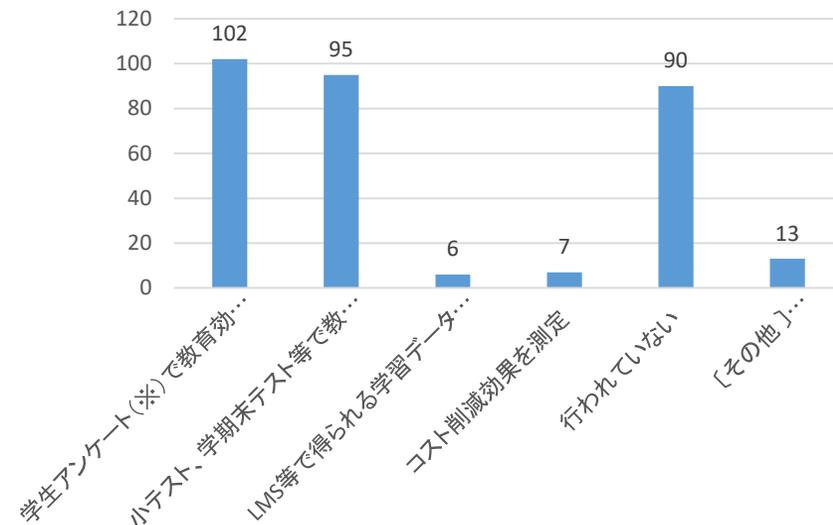
■ICT活用教育の効果測定が行われていないケースが、全体の約29%ある

(回答数90/313)

一方で、ほぼ同率（約30%強）で、『学生アンケート』（回答数102/313）や『テスト』（回答数95/313）で効果測定されているケースもある

No.	選択肢	回答数
1	学生アンケート（※）で教育効果を測定	102
2	小テスト、学期末テスト等で教育効果を測定	95
3	LMS等で得られる学習データを利用して教育効果を測定	6
4	コスト削減効果を測定	7
5	行われていない	90
6	〔その他〕 検定合格率。一部の卒業生にシステム評価と継続実施の可否を伺っている。	13

※学生アンケートには、授業評価アンケートを含む

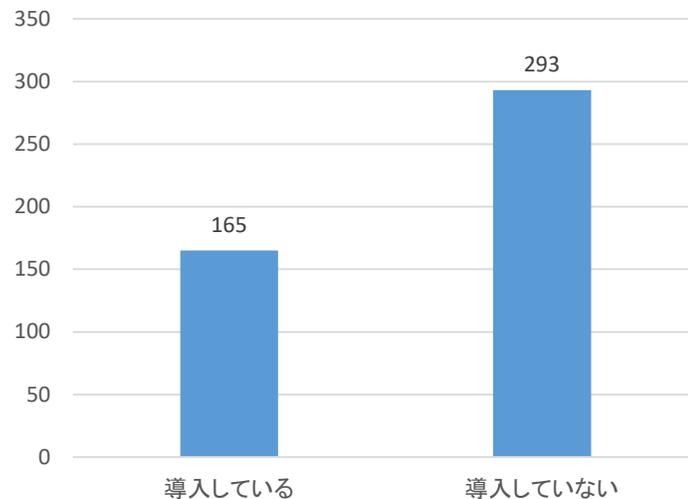


■動画教材を導入しているケースが、全体の約36%である (回答数165/458)

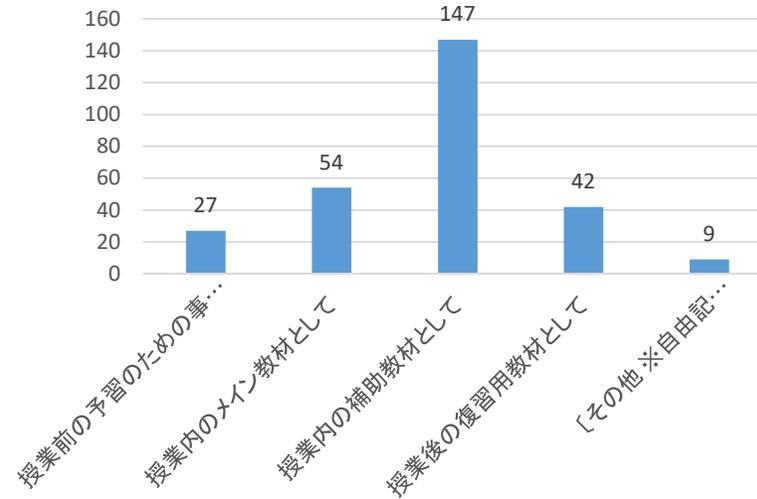
■動画教材の導入用途として、最も多い回答は『授業内の補助教材』であり、全体の約53%である (回答数147/279)

一方で、導入できていない理由は、『ICTのための準備時間をとれない』『自分自身や担当教員がICTに疎い』『予算がとれない』が最も多く、これらは教務責任者アンケート回答結果と一致している

No.	選択肢	回答数
1	導入している	165
2	導入していない	293

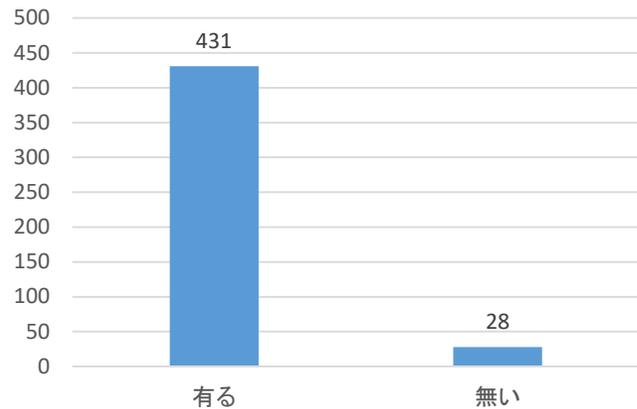


No.	選択肢	回答数
1	授業前の予習のための事前学習教材として	27
2	授業内のメイン教材として	54
3	授業内の補助教材として	147
4	授業後の復習用教材として	42
5	〔その他 ※自由記述〕	9

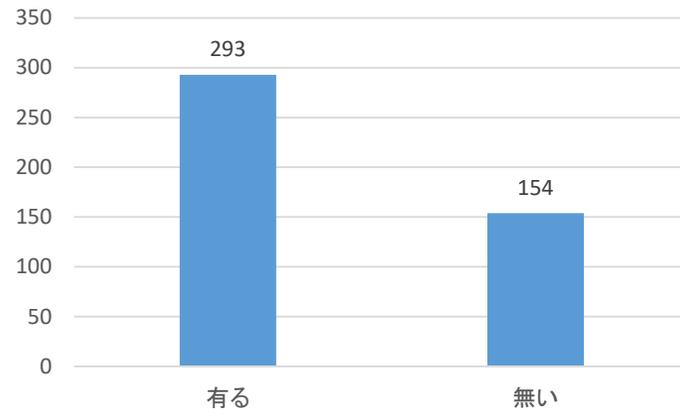


■授業で教員が活用できるデバイスは「学校所有パソコン」(回答数431/459、全体の約94%)、
 「個人所有スマートフォン」(回答数293/447、全体の66%)、「学校所有タブレット」(回答数251/452、全体の約56%)
 の3つが主だったものである

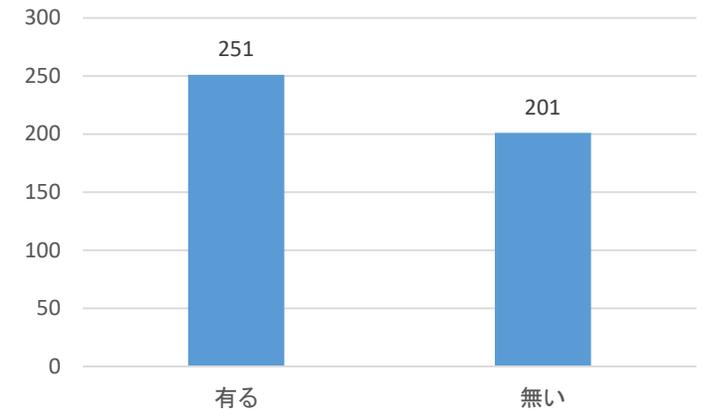
No.	デバイス	回答数
(1)	学校所有パソコン	
No.	選択肢	回答数
1	有る	431
2	無い	28



No.	デバイス	回答数
(6)	個人所有スマートフォン	
No.	選択肢	回答数
1	有る	293
2	無い	154



No.	デバイス	回答数
(3)	学校所有タブレット	
No.	選択肢	回答数
1	有る	251
2	無い	201

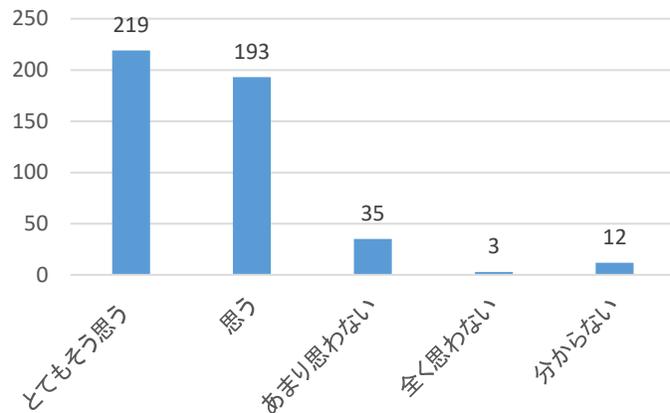


■教員個人レベルで実施可能な「動画教材の制作・授業活用・効果測定」方法を理解した場合に、強く期待する効果の上位3つは以下の通り

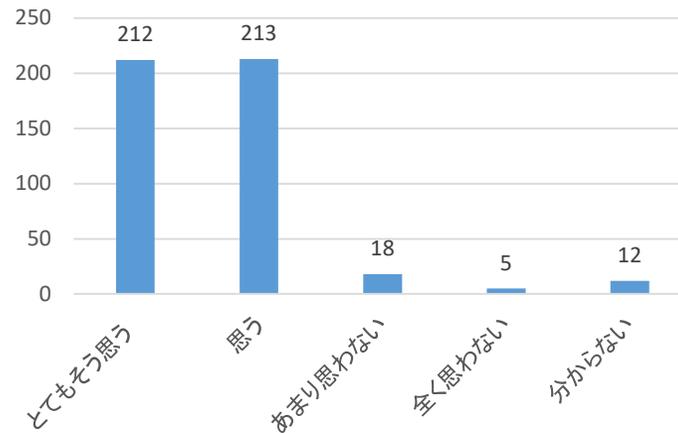
- (1位) 学生の学習意欲の向上（「とてもそう思う」回答数219、全体の約47%）
- (2位) 学生の学習効果の向上（「とてもそう思う」回答数212、全体の約46%）
- (3位) 学生に対してより便利な学習環境の提供（「とてもそう思う」回答数193、全体の約42%）

その際に、上記のような教員にとって身近な3つのデバイスを活用できることが望ましいと思われる

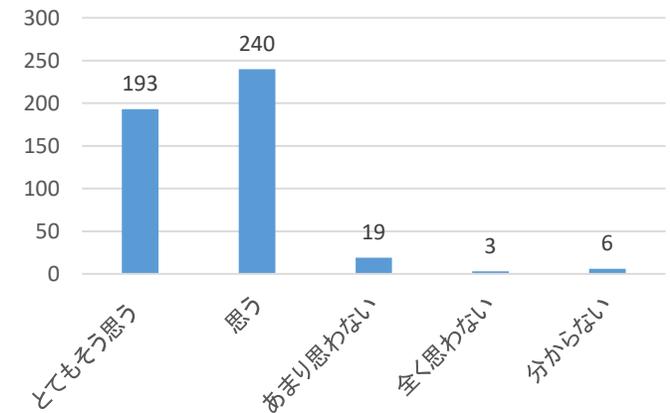
No.	効果	回答数
(2)	学生の学習意欲の向上	
No.	選択肢	回答数
1	とてもそう思う	219
2	思う	193
3	あまり思わない	35
4	全く思わない	3
5	分からない	12



No.	効果	回答数
(3)	学生の学習効果の向上	
No.	選択肢	回答数
1	とてもそう思う	212
2	思う	213
3	あまり思わない	18
4	全く思わない	5
5	分からない	12



No.	効果	回答数
(1)	学生に対してより便利な学習環境の提供	
No.	選択肢	回答数
1	とてもそう思う	193
2	思う	240
3	あまり思わない	19
4	全く思わない	3
5	分からない	6

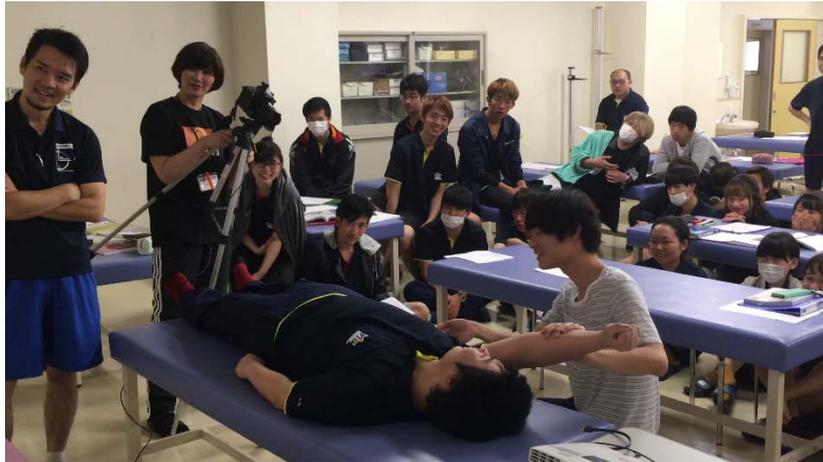


2. ICT活用研修開発のための視察調査

日程	学校名・取材対象	分野	主たるICTツール	取材済内容	WG委員	DHW
2018年10月26日（金） 11:10～14:30	専門学校Y I Cリハビリテーション大学校 作業療法学科 学科長 渡辺慎介 作業療法学科 石丸拓也	作業療法学	一眼レフカメラ	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題） ・授業見学（授業風景、ICT活用シーンを動画収録） ・学生インタビュー（ICTツールへの感想、ICT活用授業への感想）	山根様 猪俣様	石川 細野
2018年10月31日（水） 14:30～15:30	麻生外語観光&製菓専門学校 教務部主任 浦川実子	パティシエ	eラーニング （ドリル問題、調理動画）	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題）	岩切様 猪俣様	石川 細野
2018年10月31日（水） 16:00～17:00	麻生外語観光&製菓専門学校 教務部/ブライダル・ウェディング科 中村直輝	ブライダル・ウェディング	PPTでの自作教材	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題）	岩切様 猪俣様	石川 細野
2018年11月1日（木） 9:00～10:00	麻生工科自動車大学校 教務部/校長代行補佐 永江貴史 教務部/整備係 サブリーダー 中村秀一	自動車	eラーニング （ドリル問題）	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題）	岩切様 猪俣様	石川 細野
2018年11月1日（木） 14:00～17:00	穴吹医療大学校 副校長代理 奈良育代	看護	iPad、電子教科書	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題） ・授業見学（授業風景、ICT活用シーンを動画収録） ・学生インタビュー（ICTツールへの感想、ICT活用授業への感想）	岡村様 猪俣様	石川 細野
2018年11月6日（火） 10:00～11:00	国際こども・福祉カレッジ 小柳津渉	こども・福祉	weclass iPad	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題）	猪俣様 山根様	石川 細野
2018年11月6日（火） 11:00～12:00	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 教務部/音響・照明科 杉本千尋 教務部/ミュージシャン科担任/ウインドオーケストラ科 梅川光平	音楽	iPad imovie ガレージバンド エアドロップ 自作の演奏動画教材	・教員インタビュー（ICTツールそのもの、授業内外での活用工夫、成果内容、課題） ・実習風景見学（スタジオ）	猪俣様 山根様	石川 細野

2. ICT活用研修開発のための視察調査

(例1) 専門学校YICリハビリテーション大学校



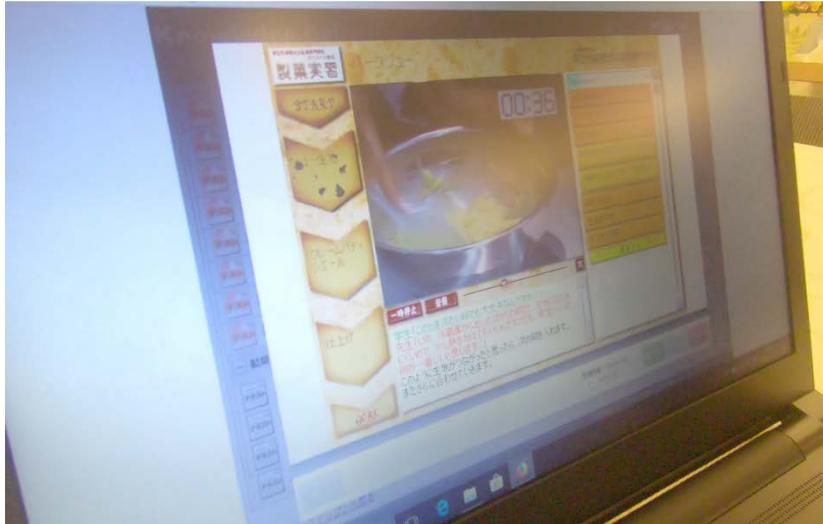
学生の実演発表の様子を、撮影担当講師が撮影。
プロジェクトに移った手元アップを楽しそうに見る他の学生。



本日の実習内容を、教員の指導のもと練習する学生。
指導教員自ら手元を写しやすい場所にカメラを置いて指導している。
この写真の撮影場所は教室の中央付近。
プロジェクトにより教員の手元を見やすいのがわかる。
機材は、デジタル一眼カメラと 프로젝터를HDMIケーブルで繋いで投影しているだけ。
現在は録画せず投影するのみの活用。

2. ICT活用研修開発のための視察調査

(例2) 麻生外語観光&製菓専門学校



株式会社デジタル・ナレッジのLMS〔オンライン学習管理システム〕上で製菓の基礎を教える動画を配信。料理番組のような構成で、横にステップが出ていたり重要なところで、ポイントマークが動画上に現れたり動画を楽しみ見せる工夫が凝らされていた。

動画の1本当たりの尺は20～30分程度で少々長めである。重要な部分は師範（教員）の手元をアップにするなど、カメラワークを駆使している。授業等で効果的に活用しきれていないのがもったいない。

左側にステップを表すクッキーのようなアイコンがある。動画の下にはセリフをすべて文字で起したキャプションが表示されている。

2. ICT活用研修開発のための視察調査

(例3) 穴吹医療大学校



①看護実習の「食事介助」の授業の様子。
1グループは、患者役、介助役、撮影役、援助計画へのフィードバック記入役と役割を分担。



②実演する学生のタブレットを撮影役の学生に渡し、所作を撮影してもらう。



③各グループに担当教員がつき、巡回しながらアドバイス。



④撮影してもらった自分の演習の動画を見ながら振り返りシートを記入。

3. ICTサンプルコンテンツ作成

- <https://dhw.study.jp>

動画教材化（eラーニング化）を行い、事前・事後学習用の体制を作りました。

4. ICT活用実証講座

日時：2018年12月20日（木）13:30-16:30、21日（金）9:30-12:30 の合計6時間

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

参加者：13名（受講証書授与は11名）

No.	法人名	学校名
1	学校法人国際総合学園	JAPANサッカーカレッジ
2	学校法人麻生塾	麻生建築&デザイン専門学校
3	学校法人有坂中央学園	群馬法科ビジネス専門学校
4	学校法人穴吹学園	穴吹デザインカレッジ
5	学校法人新潟総合学院	新潟会計ビジネス専門学校
6	学校法人新潟総合学院	新潟会計ビジネス専門学校
7	学校法人シモゾノ学園	国際動物専門学校
8	学校法人シモゾノ学園	国際動物専門学校
9	学校法人鈴木学園	中央調理製菓専門学校静岡校
10	学校法人三友学園	専門学校岡山情報ビジネス学院
11	学校法人宮崎総合学院	大原簿記公務員専門学校宮崎校
12	学校法人有坂中央学園	中央情報経理専門学校 前橋校
13	学校法人京都中央学院	YIC京都ビューティ専門学校

4. ICT活用実証講座（講師プロフィール）



合田 美子
熊本大学 教授システム学研究センター 准教授

東京学芸大学大学院(英語教育)修了後、フルブライト奨学金にて米国フロリダ工科大学大学院科学教育学研究科修士課程、博士課程を修了。Ph.D.(科学教育)。米国大学院在学中に、台湾樹徳科技大学の専任講師。博士課程修了後、米国同大学院非常勤講師、NPO環境教育団体の教育テクノロジーコーディネータ。2005年に帰国後、青山学院大学総合研究所客員研究員、大手前大学現代社会学部准教授などを経て、現職。2018年3月デジタルハリウッド大学院にてデジタルコンテンツマネジメント修士を取得。



石川 大樹
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 教育開発チーフディレクター

大学卒業後、大手キー局にて番組制作を担当。
2004年デジタルハリウッド入社以来、数多くの新規事業に携わる。その経験を活かし、現在は動画教材や教育メディアを開発。動画教材の教育効果と若年層へのプログラミング教育手法を研究している。

4. ICT活用実証講座（到達目標とシラバス概要）

- ① ICTを活用した授業を展開することで、学生の学習に対するモチベーションと基礎・応用力等が伸びる事実・事例を知る。
- ② 上記を受けて、教員がICTを活用した授業の必要性を理解する。
- ③ ICTを活用した授業における「インストラクショナルデザイン理論」を理解し、対象教員が授業デザインを自ら行うことができる状態になる。
- ④ ICT活用の一例として、eラーニング（映像）教材に注目し、eラーニング教材内製化のための基本的知識と技術を理解する。
- ⑤ eラーニング（映像）教材を自ら制作できる状態になる。

1日目	2日目
動画撮影と共有 ・グループでのけん玉（※）の動画撮影と共有 ・動画撮影のポイント	ID基礎 指導案(各自)確認
	けん玉を教育目的に教える ・指導案作成 ・動画撮影 ・グループ毎の相互評価
	・指導案(各自)の動画教材部分
ID基礎（2日目課題説明）	・アクションプラン

（※）
 技術・技能指導におけるICT活用ということで、幅広い方に対応できる共通のお題として“コツを理解して少し練習すれば出来るようになる”けん玉”を採用した。
 けん玉の技を覚えるというよりも、けん玉の技術・技能指導の動画教材制作を通じて、動画教材制作のコツをつかんで頂くためのものであり、参加者にもその旨は説明している。

4. ICT活用実証講座（当日模様）



グループで「けん玉」の特定技能を解説する
動画構成を検討中



動画教材を披露

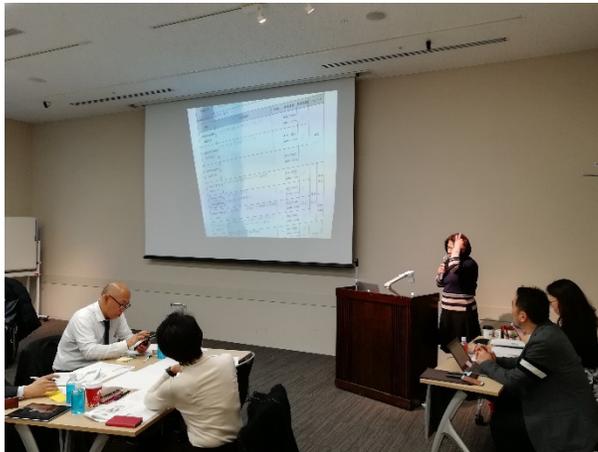
【1日目に作成した動画教材】

<https://youtu.be/AgkT5Ld3flk>

<https://youtu.be/-GA1WmXTvPM>

<https://youtu.be/yAV2cyp0ku0>

<https://youtu.be/ltfxk848uq0>



動画教材を組み込んだ指導案を発表 & FB



受講証書を授与

4. ICT活用実証講座（受講者コメント～研修の印象について～）

「ネガティブ印象⇔ポジティブ印象」を9段階で評価												平均	標準偏差
	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
①	つまらなかった								2	9	おもしろかった	8.82	0.39
								18.18%	81.82%				
②	眠くなかった							1	10	眠くならなかった	8.91	0.29	
								9.09%	90.91%				
③	好奇心をそそられなかった						1	1	9	好奇心をそそられた	8.73	0.62	
							9.09%	9.09%	81.82%				
④	マンネリだった						1	2	8	変化に富んでいた	8.64	0.64	
							9.09%	18.18%	72.73%				
⑤	遣り甲斐がなかった							2	9	遣り甲斐があった	8.82	0.39	
								18.18%	81.82%				
⑥	自分には無関係だった					1		2	8	自分に関係があった	7.83	0.89	
						9.09%		18.18%	72.73%				
⑦	どうでもいい内容だった							3	8	身に着けたい内容だった	8.73	0.45	
								27.27%	72.73%				
⑧	途中の過程が楽しくなかった							1	10	途中の過程が楽しかった	8.91	0.29	
								9.09%	90.91%				
⑨	自信がつかなかった					2	1	3	2	3	自信がついた	7.27	1.42
						18.18%	9.09%	27.27%	18.18%	27.27%			
⑩	目標が曖昧だった				1			1	3	6	目標がはっきりしていた	8.09	1.44
					9.09%			9.09%	27.27%	54.55%			
⑪	学習を着実に進められなかった				1			2	2	6	学習を着実に進められた	8.00	1.48
					9.09%			18.18%	18.18%	54.55%			
⑫	自分なりの工夫ができなかった			1		1	4	2	3	3	自分なりの工夫ができた	7.27	1.66
				9.09%		9.09%	36.36%	18.18%	27.27%				
⑬	不満が残った							1	10	やってよかった	8.82	0.57	
								9.09%	90.91%				
⑭	すぐには使えそうもない					1	2	1	7	すぐに使えそうだ	8.27	1.05	
						9.09%	18.18%	9.09%	63.64%				
⑮	できても認めてもらえなかった							2	2	7	できたら認めてもらえた	8.45	0.78
								18.18%	18.18%	63.64%			
⑯	評価に一貫性がなかった							2	1	8	評価に一貫性があった	8.55	0.78
								18.18%	9.09%	72.73%			

※青枠は最高点、赤枠が最低点

4. ICT活用実証講座（受講者コメント～研修の良かった点～）

- 実際に動画を積極的に取り入れようという気持ちになった。
- 動画を作るポイントが分かって作りやすそうと感じた。
- 誰でもできると思える内容で、人に勧めやすかったです。
- 理論の部分などからフォローしていただき、とても隅々まで分かりやすかったです。
- 授業の組み立て方がよく分かった。
- 何でもかんでも動画にしなくて良いことがよく分かった。
- 実際に動画を作れたこと。
- 説明が簡単で分かりやすい。
- 実際に研修内に、動画撮影や指導案を作成する時間があり、またブラッシュアップする時間も頂けたこと。
- 理論に基づいた講義があったこと。
- IDについて理解できた。
- 動画のポイントが分かった。
- ICTと聞くと難しそうに思っていたのですが、とても気軽にできると感じました。
- 効果的な動画活用方法が分かった。
- 動画の活用の仕方が分かって良かった。
- 作成の仕方についても理解できた。
- 分かりやすく為になった。
- 実践させてもらったこと。
- （石川先生）Youtubeを使っでの動画アップロード方法を学べたこと。
- （合田先生）インストラクショナルデザイン、教育工学の内容深いお話。
- 自分で体験できる。
- 実践的。

4. ICT活用実証講座（受講者コメント～研修の改善点～）

- 2日目の初めは、難しい言葉が多すぎて、理解が大変……。 (もう少し、砕けた説明だともっと良いかなと！)
- もう少しゆったりできてよかったのかも。
- 休憩欲しかったです。
- 動画の作成→分かりやすい動画。
- IDを意識した授業への導入。
- もう少し時間があるといいと思った。
- 動画の撮影をするとき、音声が入りにくい、できれば音声がきちんと録音できると良い。
- (1日目) けん玉も楽しかったが、もっとその時間を短縮し、後半もっと動画編集詳細ポイント（撮り方、ズーム、光、音など）、アップロード詳細や周辺機器との繋げ方法詳細など知れると、また説明頂いた内容シラバスがあると更に良かったです。
- (2日目) 後半けん玉についての最終指導案作成となったが、その前に各自先生方が作成してきた指導案をもっとじっくり検証し見てみたかったです。

4. ICT活用実証講座（受講者コメント～研修成果についての自己評価～）

「できない⇔できる」の自己評価を0～10の11段階で実施		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	標準偏差
①	動画制作の手順を説明できない				1		1	1		4		3	7.60	2.20
					10.00%		10.00%	10.00%		40.00%		30.00%		
②	動画制作のポイントを列挙できない						1	4	1	4			6.80	1.14
							10.00%	40.00%	10.00%	40.00%				
③	動画を撮影できない				1		1	1	1	2	1	3	7.60	2.37
					10.00%		10.00%	10.00%	10.00%	20.00%	10.00%	30.00%		
④	動画をネット上に公開できない				1					2	1	6	8.80	2.09
					10.00%					20.00%	10.00%	60.00%		
⑤	動画を他の人に共有できない				2					2	2	4	8.00	2.61
					20.00%					20.00%	20.00%	40.00%		
⑥	動画教材がどんなものかイメージできない								3	2		5	8.70	1.35
									30.00%	20.00%		50.00%		
⑦	IDとは何か簡潔に説明できない				2		2	3	1	1		1	5.90	2.02
					20.00%		20.00%	30.00%	10.00%	10.00%		10.00%		
⑧	授業で動画教材を効果的に活用する方法を説明できない						2	4	3	1			6.30	0.90
							20.00%	40.00%	30.00%	10.00%				
⑨	授業設計で活用する動画教材を評価し改善点を挙げるできない				1		1	2	4	1	1		6.50	1.57
					10.00%		10.00%	20.00%	40.00%	10.00%	10.00%			
⑩	動画教材の作成は自分でも出来そうだと思う						1		1	3	1	4	8.50	1.57
							10.00%		10.00%	30.00%	10.00%	40.00%		
⑪	自分の授業でも動画教材を活用してみようと思わない						1			1		8	9.30	1.55
							10.00%			10.00%		80.00%		

※青枠は最高点、赤枠が最低点

4. ICT活用実証講座（オブザーバーコメント）

- 全体を通じて 受講者は、気軽に楽しく取り組めるコンテンツとなっていた。ICT活用という中で、今回のテーマがどの位置付けなのか、また動画活用のために、必要な環境と道具について、教授者側と受講者側のガイドがあると良い。また、音声が重要とのコメントがあったが、この扱い方が講座でも難しさがあったため、この問題をクリアする方法も提供が必要。
- ★ 1 日目★タイムスケジュール・時計を見せておくこと。（途中で画面が途切れてしまいました） グループで話し合う基本的なルール説明があると良い。技能演習を考える場合、一人より二人で行った方が、気づきが得やすい。また動画作成もしやすいことが、実習の様子でわかった。技能のコツも自らの感覚と観察者からの視点を合わせることで効果が向上する。この辺りも、効果性の解説があると良いかもしれない。その上で、グループ全体でまとめるのはどうだろうか。グループの学習効果として、実習中も声を掛け合っている方が楽しく実効性がある。後半はその様子が見えていたため、この辺りの計画・効果・留意事項も説明があるといい。グループ交換する際のデータのやり取りをするルールと知識が必要。講師の事前準備について、教室環境としての機器とセッティング、事前のメールアドレスのグルーピングや共有ルールを決めておくことと良い。この辺りも教員ができるためのマニュアル化が必要。
- ★ 2 日目★ニーズ分析、対象者、学習目標、技術、コスト分析 コース運用業務 インストラクタ業務 学習支援業務 などのキーワードが説明されたが、IDの概要について全体的に難解な感じがするので、内容を9教授事象とARCSとADDIEくらいで、いいのではないかと。階層分析として手順分析の練習をしておく、コツを整理できるのではないかと。配布資料と画面との連動について、インストラクションが欲しい。動画をどのように、何の目的で活用しているか、9教授事象に合わせて説明ができるように。また動画使うことでの学習効果の狙いを明確にする 環境（ICTを活用する上で必要な周辺機器の整備と接続等のセッティング） 周辺機器とは、プロジェクタ、パソコン、書画カメラ、スクリーン、接続用ケーブル（スマホとPC、PCとプロジェクタ） これらの準備物リストと手順書が教員には必要。動画について、FBコメントのポイントを準備（動画面、授業設計面）。また動画を事後学習に活用することの有効性を解説しておくことと良い。

4. ICT活用実証講座（オブザーバーコメント）

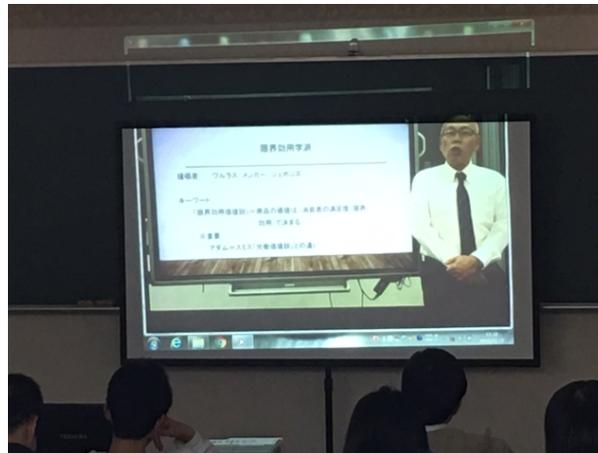
- PCの動作確認は完璧にやっておかないとロスタイムが生じると思いました。場合によっては、PC操作の黒子が必要かと思います。動画のワークは、2人組でやることも考えてみると良いかもしれません。実戦に近いし、2人だと気づきの共有がやすく、撮影しやすいメリットがあります。このICT活用の対象にけん玉を選択したのは大正解でしたね。
- ★良かった点★参加者が比較的楽しみつつアクティブに受講していただいた点は非常に良かったと感じます。今後は各受講生が自身の学校に戻り如何に活用するかが大きな課題と感じています。
- ★改善すべき点★スクール形式の説明パートに関してですが、内容が少し難解と感じる方がいるのではと感じました。自己研鑽に励む教員としてはIDの基礎知識は当然身につけて然るべきとは考えておりますが、自身の知恵として活用する段階まで理解している方は少ないのではと考えます。この様なベース知識レベルでは解説のスピードや理解が追いつかない場合も発生するのではと感じました。内容としては非常に素晴らしいのですが、使用する言語をIDの基礎知識が無い方でも理解できるレベルまで噛み砕いてはどうかと考えます。事前学習でテキストを予習しているとはいえ、即座に理解するのは難しいのではないのでしょうか。動画の活用や教育方法論の活用をこれから実施しようというモチベーションをあげるためにもハードルを低く感じさせる必要があるのではないのでしょうか。
- ★良かった点★ICTを授業に取り入れるためには、1教員が取り組み始めることが早道であることを強調していただけた。ICTを得意にしていない教員でも、簡単に動画教材を作成することができると実感していただけた。異なるグループから気づきを得ることで、短時間で教材を改善することができていた。インストラクショナルデザインを学んでいない人もいたと思うので（事前学習で案内はしていたが、実際にダウンロードして見ていない人もいたため）、指導案作成にとっても役立つ内容であったと思う。
- ★改善点★最終課題に向けて、実技系授業以外における動画作成の例の提示もあとよかった。動画撮影時に、別のグループの声が入ったり、撮影時に立ち位置が近すぎて邪魔になったりしていたため、各グループは離れた位置で、壁などの前で撮影するようにアナウンスしてあげておくよかった。撮影した動画を提出する時間をほとんどの参加者が意識せず、時間が過ぎても撮影しつづけていた。撮影時にワザが成功しないと撮りなおしをしていたために提出が遅くなっていたので、提出後の動画確認の目的及び視点を強調し、ワザを気にせずに時間通りに提出していただくようにするとよいと思う。各自の授業の指導案を他の人にみていただく時間は確保した方がさらによかったと思う。
- 有意義な研修だったと思います。様々な分野の先生方が参加されたこと、カメラアプリを使い動画を撮影しアップすることは大がかりな機器などがなくてもできることを周知できたこと、そして視覚的に見せる学習効果について理解していただけたと思います。またIDの内容についても受講の中に組み込まれていたことは単なる機器の活用に留まらず参加された先生方のスキルアップにつながったと思います。時間が許せば、受講された先生方から最後に一言コメント（研修で得たものを今後どのように授業の中で活かしていけるか）いただけると、参加された先生方の同士で、ああなるほど！自分も試してみようかな…という気づきにつながったかもしれないと思います。

4. ICT活用実証講座（受講者コメント～研修後の現場実践～）

研修の事後課題（任意）として、1/31までに各教員の専門分野の技能習得テーマでの動画教材作成と、授業現場への導入実践を課しています。

※最終的に5名（11名中）の教員に提出頂きました。今後フィードバックを実施します。

- <https://youtu.be/XbrL62ujvZ8>
- <https://youtu.be/-VxrhVPWaHY>
- https://youtu.be/_6tNSQSSFJ8
- <https://youtu.be/7l9xrPmlo1k>
- <https://youtu.be/vSzOSVbUkX8>



（教員コメント一部）

学生達にはなかなか評判は良かったかなと思います。

また、学生からこういった動画がほしいなどの声も挙がったので今後の参考にしていきたいです。

5. 次年度に向けた課題

- 到達目標の中でも、今回の実証講座では「教員がICTを活用した授業の必要性を理解する」の達成度が弱いと思われる。それは、今回の参加教員のICT（動画）リテラシーが想定より高く、本来のターゲットであるICT（動画）リテラシーが低い教員にとっての上記目標を達成できたかどうか検証できなかった為である。
- ICT（動画）リテラシーが低い教員がICT（動画）活用に興味を持ってもらうために、従来の授業方法と比較して劇的な成果を伴う進化を実感してもらう必要があり、彼ら彼女ら自身の専門分野により特化した研修が必要と思われる。
- 研修開催は東京だけでなく、eラーニング内容のより一層の充実や地方へ出張型も考慮する。そして、向上心旺盛の教員同士のコミュニティ形成を誘導させたい。
- 教員が作成した各専門分野の動画教材をWeb上で持続的に共有・ブラッシュアップ・活用促進の仕組みが必要である。
- 参加教員のインストラクショナルデザインへの（研修で求めるレベルの）理解度にバラつきがあった。事前課題フェーズでの理解度追跡、研修内での復習時間設置など、皆の理解度を均すの仕組みが必要である。
- 参加者個人作成の指導案へのフィードバックなど、個人へのフィードバックをより重視すべきである。

1日目	2日目
動画撮影と共有 ・グループでのけん玉の動画撮影と共有 ・動画撮影のポイント	ID基礎 指導案(各自)確認
	けん玉を教育目的に教える ・指導案作成 ・動画撮影 ・グループ毎の相互評価
ID基礎（2日目課題説明）	・指導案(各自)の動画教材部分 ・アクションプラン



今年度開発講座シラバスのブラッシュアップ案

1日目	2日目
動画撮影と共有 ・グループでのけん玉の動画撮影と共有 ・動画撮影のポイント	・個人の指導案の相互評価
	けん玉を教育目的に教える ・指導案作成 ・動画撮影 ・グループ毎の相互評価
ID基礎&ICT活用法 ・指導案(各自)作成 (終わらない時は2日目までに)	・指導案(各自)の指導案改善 ・アクションプラン